



曾於市の縄文時代

生涯学習課 文化財・市史編纂室 ☎ 0986-76-8873

寒

冷な環境の中、狩猟採取の移動生活を行っていた旧石器時代が終わりを迎え、新たな時代へと移ります。地球規模の温暖化が進み、海面が上昇、動物相の変化

木の実をもたらず広葉樹林が広がる環境へ変化します。土器の誕生をもって縄文時代がスタートしますが、そのほかにも長期間の定住化が進み、弓矢や漁労具の誕生、犬の飼育、木の実をすり潰す石皿と磨石のセット使用など、生活の変化の特徴があげられます。

1 万年以上続く縄文時代は、災害などによる大きな環境の変化や、他地域のまったく異なる土器文化の流入により、6つの時期に分けられます。

(※時期の詳細は表を参照)

市内でも各時期の特徴が発掘調査や出土遺物で観察されます。桐木耳取遺跡では後期旧石器時代の遺物と共に、草創期の最も古い形体の土器が出土しています。早期では定塚遺跡で97件の住居跡が発見され、大規模集落の痕跡をうかがわせる成果があらわれています。

前期は鬼界カルデラの大規模な火砕流により、人々の生活は壊滅的な打撃を受けたようで、遺跡や出土遺物が極端に減少します。

中期に入ると、他地域にルーツを持つ形体の土器が広く見られるようになります。災害から植生が回復し生活の基盤が復興したと考えられ、安定した生活のもと、新たな文化が流入してきたようです。宮之迫遺跡からは他地域のデザインを踏襲した土器が大量に出土し、後の南九州の新たな土器文化に強い影響を与えたと考えられます。

後期・晩期では新たな技術が施された土器の流入とともに遺跡数がさらに増加、また2つの時期が継続している事例が多く見られます。中岳洞穴、塚ヶ段遺跡では他地域文化の伝搬もありながら、在地の土器も発展した様子がうかがえます。

文字の無い縄文時代の生活を解明することは非常に困難ですが、発掘調査や遺物の研究により、多くの災害や苦勞を乗り越え、広域的なネットワークを築いてきた先祖の生活が、少しずつ解明されています。

縄文時代 各時期の区分

草創期	約 16,000 年前～約 10,000 年前
早期	約 10,000 年前～約 7,400 年前
前期	約 7,400 年前～約 6,400 年前
中期	約 6,400 年前～約 4,200 年前
後期	約 4,200 年前～約 3,500 年前
晩期	約 3,500 年前～約 2,300 年前

備考：縄文時代の始まりはまだ古くなる可能性が指摘されており、各時期の年代も古くなると考えられます。



小倉前遺跡出土の春日式土器（末吉町）

縄文時代中期前半のもの。他地域の土器の影響を受けた形体の土器。



市史編さんだより第3号を発行しました。